

第152回簿記検定試験

1級 出題の意図

[商業簿記]

(出題の意図)

今回は、主として、損益計算書の作成に関する総合的な問題を出題しました。

出題の対象は、受託販売、ソフトウェア、誤謬の訂正、有価証券、退職給付、社債、税効果会計など、多岐に及んでおり、より具体的には、商品売上高と役務収益の表示の違い、誤謬の訂正と見積りの修正の違い、繰延税金資産の回収可能性などがテーマとなっています。これらに関する個別的な理解を有していることはもちろん、財務諸表において総合的にまとめる能力も要求しています。

また、株主資本等変動計算書についても、部分的ではありますが、出題しています。損益計算書、貸借対照表および株主資本等変動計算書の相互関係について理解しているかどうかを問いました。

[会計学]

(出題の意図)

第1問では、時の経過による資産除去債務の調整額の表示区分、取替法、キャッシュ・フロー計算書における投資活動によるキャッシュ・フローの表示区分、減損損失の認識の判定において用いられる基準および連結基礎概念についての知識を問う問題を出題しました。会計学を学習していくうえで基本となる専門用語の理解を問う設問です。

第2問はリース取引の処理について総合的理解を問う問題です。リース取引については、まず現在価値基準と経済的耐用年数基準に基づいて、オペレーティング・リース取引とファイナンス・リース取引とに分類し、ファイナンス・リース取引についてはさらに所有権移転ファイナンス・リース取引と所有権移転外ファイナンス・リース取引に分類して、それぞれの分類に応じて処理をしていきます。本問では、これら一連の流れが理解できているかを問いました。

第3問は持分法についての全般的な理解を問う問題です。本問では、持分法の主要な論点となる、被投資会社の株式取得時におけるのれん（負ののれん）の把握、決算日におけるのれんの償却、当期純利益（損失）の計上、配当金の修正、未実現利益の消去について、その処理が網羅的に理解できているかどうかを問いました。

[工業簿記]

(出題の意図)

第1問では、工程別実際総合原価計算の基本的な知識を問う出題をしました。問1から問4までは、予定価格を用いた原料消費額の計算と棚卸差額の処理、加工費の正常（予定）配賦とそれにとみなす差異分析、非度外視法による仕損や減損の処理、累加法の計算方式などが理解できていれば、着実に解答できるはずです。注を含めて、資料や問題文を的確に読みこなす能力も必要でしょう。問5では非累加法による勘定記入を問いました。ここでは、完成品総合原価の金額が累加法と同じになる方法で答えるように指示されている点がポイントです。

第2問では、外注加工の会計処理に関して、勘定記入の観点から出題しました。無償支給と有償支給の違いを理解してほしいところです。答案用紙に相手勘定科目がすべて示されているのがヒントです。不合格品の処理にも注意が必要です。

[原価計算]

(出題の意図)

直接標準原価計算制度を採用している企業の短期利益計画ならびに予算編成から、予算損益計算書、現金収支予算、CVP分析、改善予算について出題しました。

予算は、販売予算から始まり、製造予算、原料費予算、購買予算、変動加工費予算、固定販売費及び一般管理費予算、予算損益計算書、設備投資予算、現金収支予算という流れで編成します。予算損益計算書の作成は営業利益まで作成したら、現金収支予算の作成へ移り、月末の最低現金残高の条件を満たしているかチェックします。それから予算損益計算書の作成に戻ります。

予算損益計算書を活用して、そこで計算される売上高営業利益率が目標を満たしているか否かをチェックし、満たしていない場合にはそれを満たす方法を検討していきます。この問題では市場の競争が激しく、収益の改善は難しいことから、原価の中でも原料費の削減と作業改善による加工時間の短縮が検討されました。

基礎をしっかりと理解しておけば、問題文に沿って解答可能な基本的な問題でした。問題文にあるヒントをしっかりと読み解く能力なども身につけるために、テキストの精読と答練をしっかりと行ってほしいと思います。